

生活保護申請 4カ月連続増

前年比 12月6.5%増 コロナ影響

新型コロナウイルスの感染が再拡大した昨年12月、生活保護の利用申請は全国で1万7308件と、前年同月より6.5%増えた。4カ月連続の前年同月比プラスで、厚生労働省は新型コロナウイルスの影響で厳しい雇用情勢が続く、貯金が尽きる

などとして申請件数が増えた可能性があると述べている。厚労省が3日発表した。申請件数は昨年5月以降は前年水準を下回って推移したが、9月から増加に転じた。年末年始は日雇いの仕事が減り、生活困窮者が増える傾向にある。これにコ

ロナ禍が重なり、厚労省はホームページなどで「生活保護の申請は国民の権利」と呼びかけた。

今年1月には2度目の緊急事態宣言が出され、申請件数は今後も増加基調をたどるとみられている。新型コロナウイルスの影響で解雇や雇い止め（見込みを含む）にあった人は昨年2月から今年2月26日までに9万人を超え、雇用情勢の回復にはほど遠い。

（石川春菜）